

## 議事録（無記名・要点記録）

### 令和3年度 第1回南砺市環境審議会 会議録

1. 開催日時 令和3年7月7日（水）午前10時00分～12時00分
2. 開催場所 南砺市役所本庁舎3階302会議室
3. 出席委員 7名（1名欠席）
4. 事務局出席者（エコビレッジ推進課）2名
5. 委託業者氏名（エヌエス環境（株））3名
6. 傍聴人 なし
7. 会議次第
  - 1 開 会
  - 2 会長あいさつ
  - 3 議 事
    - （1）第2次南砺市環境基本計画 骨子（案）
    - （2）第2次南砺市環境基本計画 現状と課題（案）
    - （3）望ましい環境像
    - （4）市民・事業者・こども意識調査結果の速報
  - 4 閉 会

#### 【質疑応答，意見】

##### （1）南砺市環境計画 骨子（案）について

- ・目標とするSDGsは、計画本体の中ではどのような形で反映されていくのか？  
⇒ 施策目標が1番から14番までありますが、そこに関係するゴールを、計画書を見てわかるように明記する。それぞれの取り組みがSDGsに繋がることわかる表現を工夫したい。
- ・ひとつの提案だが、SDGsで17のゴールだけを見ていてもよく分からない。その下にあるターゲットには、意外と具体的なことが書いてあるため、そこまで掘り下げてはどうか。施策目標がSDGsの何番と言われた時に、市民が、なぜその番号なのか繋がりが分かった方がいい。

##### （2）第2次南砺市環境計画 現状と課題（案）について

###### I 地球温暖化対策

- ・地球温暖化対策に、（気候変動適応策の推進（案））が追加されているが、どういう位置付けにするのか。  
⇒ 現行の環境基本計画策定時には、気候変動適応法という法律はなかった。これまでの地球温暖化対策は、なるべく温暖化が進まないようにしようというのが基本的な施策だ

った。この気候変動適応策は、ある程度温暖化が進むのを認め、その上で、温暖化の影響をなるべく回避や低減するためにリスク管理をして、適応していこうとする法律。提案として、令和3年1月の審議会の施策改定案には入っていなかったが、法律や社会の状況に対応出来るように、今回の計画改定にあたって地球温暖化対策の部分の施策目標に追加してはどうか。

・ゼロカーボン対策は、非常に難しい話。富山県では、カーボンニュートラル推進課を作ったばかりであり、市町村とどうタイアップしていくかなど、まだ分からないことも非常に沢山ある。

⇒ワンチーム富山といって、県と市町村が一緒になって取り組んでいくものの1つに、ゼロカーボンシティの達成というものがあがっている。まだ具体的な動きは決まっていないが、県と市町村と連携してやっていこうと検討しているところ。

・これに関してはどう進めていくのか気になる。30年後の2050年は人口も減少している。人口変動も当然考慮したうえで、どこを重点的に削減するかを出さないと、減った気がしない。重点的に施策をやるとどのくらい下がるかを見たい。

⇒その点を見せていかななくてはいけないということが課題になってくる。

・エネルギー消費の総量も計算されているのか。

⇒今あるのは環境省が示している全国の市町村別の資料。ゼロカーボンシティであらためて市民の方に見て頂ける具体的な数値を拾って推計して総量を出すために取り組もうとしているところ。

・ゼロカーボンは南砺市の中のみのか。融通するという考えはあるのか。

⇒一つは呉西圏域で考え、総量規制が難しい市でも圏域として達成できないか。また、南砺市の中で、例えば民間事業者様が苦労しても達成できないという環境基準があるとすれば、そこを市側でCO<sub>2</sub>排出に関する権利を少しお渡しすることで、南砺市内においてまず達成し、それから外に向かって取引へという考え方もある。

・部門別排出割合は産業が45%と大半を占めているが、家庭部門での17.5%について具体的な排出を示すと、生活の中で何に心掛けないといけないのかわかる。環境基本計画のように、大きな目標を立てる中に、行動編で家庭での注意事項というものがあれば、身近な問題として捉えることができる。

・SDGsの推進に関する包括連携協定で、企業と共同で熱中症対策講座を検討していることは、具体的であり、各企業のSDGsの啓蒙も含めていい取組である。

## II 安全・衛生

- ・南砺市は田んぼが多いため、種子外殻のマイクロプラスチックの流出が多いのではないか。水環境であり、かつ資源循環であるが、農業者が多いから急に対策することは難しいのか。
- ・発砲スチロールよりも小さなものだから取りようがない。本当は溶けるはずなのだが、溶けずに残る。福井県では外殻を片栗粉やゼラチンなどでできないか、開発している。
- ・崩れてマイクロ化していく。農業の多い地域ではそういう部分を重点的に考えてもよい。
- ・自動車の排気ガスの話に関連して、自動車の保有率が結構高い。地域でデイサービスの送迎に使われている車が意外と多いため、まとめて公共サービスにすれば、進捗実績の中にある、公営バスの年間乗車人数や、公共車に占める低公害車や、次世代自動車の割合が低迷している部分を補うことが可能なのではないか。

## III 自然との共生

- ・指標の数字自体は今後見直されるのか。改善してもなかなかその数値に到達できないものもあると思う。また、今後子どもの数が減っていくことから、活動内容も見直していく必要があるし、今後の課題であると考える。  
⇒基準年度に立てた指標のとおり目標は、社会の状況も変わってきているため、見直しも必要。
- ・新しい計画の目標は今回示されていないが、今の指標をそのまま使うかも検討し、次回に提示するのか。  
⇒次回に提示したい。
- ・イベント関係でコロナの影響は当然で、今の計画の達成状況の判断をするときに、単純に令和2年を使うと厳しいのではないかと。令和元年も考慮していいのではないかと。コロナがおさまった場合はまた、考える必要がある。  
⇒新しい生活様式の中で、どんな改善方法があるのかということを考える。  
⇒指標は、計画作り、目標を立てて、毎年色々な取り組みをする中で、しっかり目標に向かっているかというものさしになるもの。環境指標の把握を毎年行うよう、見直せたらいい。毎年度把握した資料を環境審議会に報告し、毎年毎年抑えながらいい方向に進みたい。何年ぶりに把握すると、経緯も分からないし、指標の数が多すぎるのではないかなという印象もある。目標がうまく進んでいるかどうかを市民にもわかりやすく表す一つが指標であるため、毎年の進捗管理という視点も含め、今回の改定で見直していければと考える。

- ・指標は今後作るが、それは今年度中に表されるということか。  
⇒今年度の改定の中で進めていく。大きな目標と細かな事業の取り組みの成果を示すものと分けたり、毎年なのか、5年毎なのか等を少し整理したり、指標の数も検討して、ご相談やご意見をいただきたいと思っている。
- ・耕作放棄地について目標は書いてあるが、どのようにするのが分からない。目標の捉え方はどうなのか。  
⇒耕作放棄地を減らしていこうという目標だが、今あるものを減らしていこうと思っている部分と、これから増えるのを抑制しようとする部分があり、減らすという努力に対する成果と分けないといけないのかもしれない。
- ・ある程度の努力で耕作放棄地を減らすことはできるかもしれないが、山間部はまず無理だと思う。水がたまり鉄砲水が来て土砂崩れになるため、畦倒しを行って山へ帰した方がよい。耕作地に戻すものと自然に戻すものとはっきり考えていかないといけない。
- ・鳥獣被害の富山県の記載はありましたが、南砺市のものはないのか。どのくらいの頻度で起こっているのか。問題視されていないのならいいが、今後10年の計画のため、5Gを見込んだ施策もあってもよいと思う。  
それも緩和策とか適応策があると思っている。害獣が出てこないようにするのと、出てきた対応の両方をやる必要があるのではないかと思う。
- ・実績のところ、整合していない部分がある。カシノナガキクイムシは、被害面積の数値がゼロとなっており、見る人を見ると意味が分からない。ミスなのか確認して、数字入れるときは慎重にしていきたい。里山再生は何のために行うのかと、鳥獣被害も関連がある。

#### IV 快適・心の豊かさ

- ・南砺市は、小規模多機能自治などの面で、ほかの行政にない部分があり、外部的には評判は非常によい。
- ・内部からみれば組織や取組み内容など、問題点もある。
- ・人口が減っている中、地域の祭りやイベントを全部残していくのかどうか、担い手が減ったからスリム化していけばいいという意見もあれば、そうではないという意見もある。考え方をどう整理するかということをやっていただきたい。
- ・地域づくり協議会でそういう認識を高めてという風になると、どんなことも推進していくが、地域づくり協議会全部が連携できているわけではない。こういうところを具体的に目標に掲げることが、今までにはない観点で大事だと思う。地域づくり協議会も規

模が違うことも踏まえた上、意識啓発もかねて目標数値・行動指標に落とししていくことが必要だと思う。資料を見ると、そういう観点ではできていないので、今後進めていくことが必要。中身と実態を把握できるような指標がよい。やっていることが評価されることを指標に加えても良いと思う。

#### V人・しくみづくり

- ・環境を守り育てる協働・連絡体制の整備に、地域づくり協議会を入れていただき、興味・関心がある方がここで行動を起こせることがあれば良いと思う。地域づくり協議会では事例発表という機会を設けているため、良い事例を発表することで、他の地区への広がり期待できる。

- ・目標指標の中に、一律ではなく、地域づくり協議会毎に見合った環境に関する目標を立てるという目標指標が必要なのではないかと思う。

⇒現行の計画を作った時は自治会という言葉だったが、今回の見直しで地域づくり協議会となり、本来は全部で31ある。目標が15というのは、行政側から無理やり作らせるのではなく、働きかけによって協議会の中で環境分野に取り組もうという風にやるもの。実際に地域づくり協議会の中で環境の部を設置したところもあると聞いている。支援できる動きになるようにしたい。

- ・行政側の目標と、市民も自分たちの目標として捉えられるように、両方を掲げる必要がある。

#### (3) 望ましい環境像について

(説明) 環境基本計画の中には環境像を優しい言葉を使って、こんな環境の形になればいいなというものを示すことが多い。望ましい環境像はどのように決めていけばよいか、(説明省略)今回は10年の計画だが、もっと先の、例えば2050年を見据えた将来像というものと、10年後の目指す姿に近い将来の環境像と個別の分野別目標の将来の姿で区分けして定められている自治体もあり、特に決まりはない。みんなイメージできるようなものがあればよい。

- ・委員に一言ずつキーワードを伺う。

- ・「人と自然が共生する緑豊かな安らぎのある町」が良いと思う。

- ・キーワードとして「一流の田舎」が議論になると思う。市民のプライドとして持つ言葉では悪くないと思っているので、これを入れるか入れないかが問題かと思う。南砺市がこれを定着させたいという意識は理解している。これに環境のことを少し加えて入れるのか、あまり魅力あふれる一流の田舎だけでは全然意味が分からないため、具体的な形容詞をつけることが、ワードとしてはよいのかという印象である。

- ・「一流の田舎」の言葉には引っかかる。徳島県の上勝町では、楽しみながらゆとりを持って生きましようとして「三流の田舎」としている。一流となると、すべてが最先端をいかなければいけない、田舎にとっては非常に厳しく、ゆとりもないように思える。
  - ・「人と自然、緑」という言葉が入っていた方がよい。
  - ・環境基本計画なので、環境と分かるキーワードと、南砺市だと分かる言葉を入れたほうがよい。
  - ・難しい。「環境・緑・人・自然」という言葉だと、どこにでもあるものになる。そこをどうするか。
  - ・「南砺」は必ず漢字にしないといけないのですか。
- ⇒県内では、射水市と魚津市で、ひらがなを使用。
- ・計画は10年間使うので、子どもたちに決めさせてもいいのではないかと思う。

#### (4) 市民・事業者・こども意識調査結果の速報

(説明) 子どもたちは学校の中で授業としてSDGsに触れているため、ゴールが偏らずに全体に関心がある結果となっている。授業で学ぶものについて左右されるところはある。子どもたちの意識がつながっていくようにこれからも努力したい。

- ・子どもたちの方から、南砺市には魅力のある町になって欲しいと言っている。こんなところからも環境像のキーワードの参考になるのではないかと思う。
- ・事業者の方でも、若い世代で経済と環境の両立を思っている。そういう意識を持っている方への啓蒙活動をさらにやっていただきたい。
- ・同じ質問がいくつかあるので、年代などの違いによる分析をすることも面白い。

以上

※「・」は委員の発言、「⇒」は事務局等の発言。